

2025年6月期 決算説明資料

2025.8.20

澁谷工業株式会社



目次

01 業績ハイライト

02 2025年6月期業績

- 決算サマリー
- 営業利益増減（前期比）
- セグメント別売上高・営業利益
- 地域別売上高
- 受注高・受注残高
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュフロー計算書
- 設備投資・減価償却費・研究開発費

03 中期経営計画2027の進捗と展望

- 中期経営計画2027の位置づけ
- 外部環境の見通しと当社製品

- 中期経営計画2027の概要（数値目標）
- 中期経営計画1年目の数値実績
- 中期経営計画1年目の進捗と展望
 - 新製品開発
 - 新市場開拓
 - 新事業創出
 - DX化・人的資本など
 - 資本コストや株価を意識した経営
 - キャッシュアロケーション方針
 - 生産増強投資
 - ESG戦略

04 2026年6月期予想および取り組み

- 2026年6月期予想
- 戦略目標の見通し
- 2026年6月期の取り組み
- 株主還元方針

01

業績ハイライト

業績ハイライト

25/6期実績

- ✓ 前期比で増収増益を達成。売上高、利益とも過去最高を更新
- ✓ パッケージングプラント事業が大きく伸長したことから、期初計画に対しても増収増益を達成

中計1年目の
取り組み

- ✓ 2025年6月期は、中期数値目標、戦略目標とも当初計画を達成
- ✓ 各事業で新製品開発が進む。ZHAプロジェクトによる新型2段殺菌システム1号機を出荷済み
- ✓ 新市場開拓では、海外の営業サービス拠点および生産体制を強化
- ✓ 新事業創出では、固液混合分散システムや自家細胞バンク向け自動細胞培養システムを製品化
- ✓ 一気通貫ものづくりDXプロジェクトに伴う新システムは順次稼働予定

26/6期予想
・取り組み

- ✓ 売上高は前期比で増加を見込むものの、損益面では若干の減益となる予想
- ✓ 2027年6月期の計画達成に向け、新製品開発、新市場開拓、新事業創出に取り組む

02

2025年6月期業績

決算サマリー

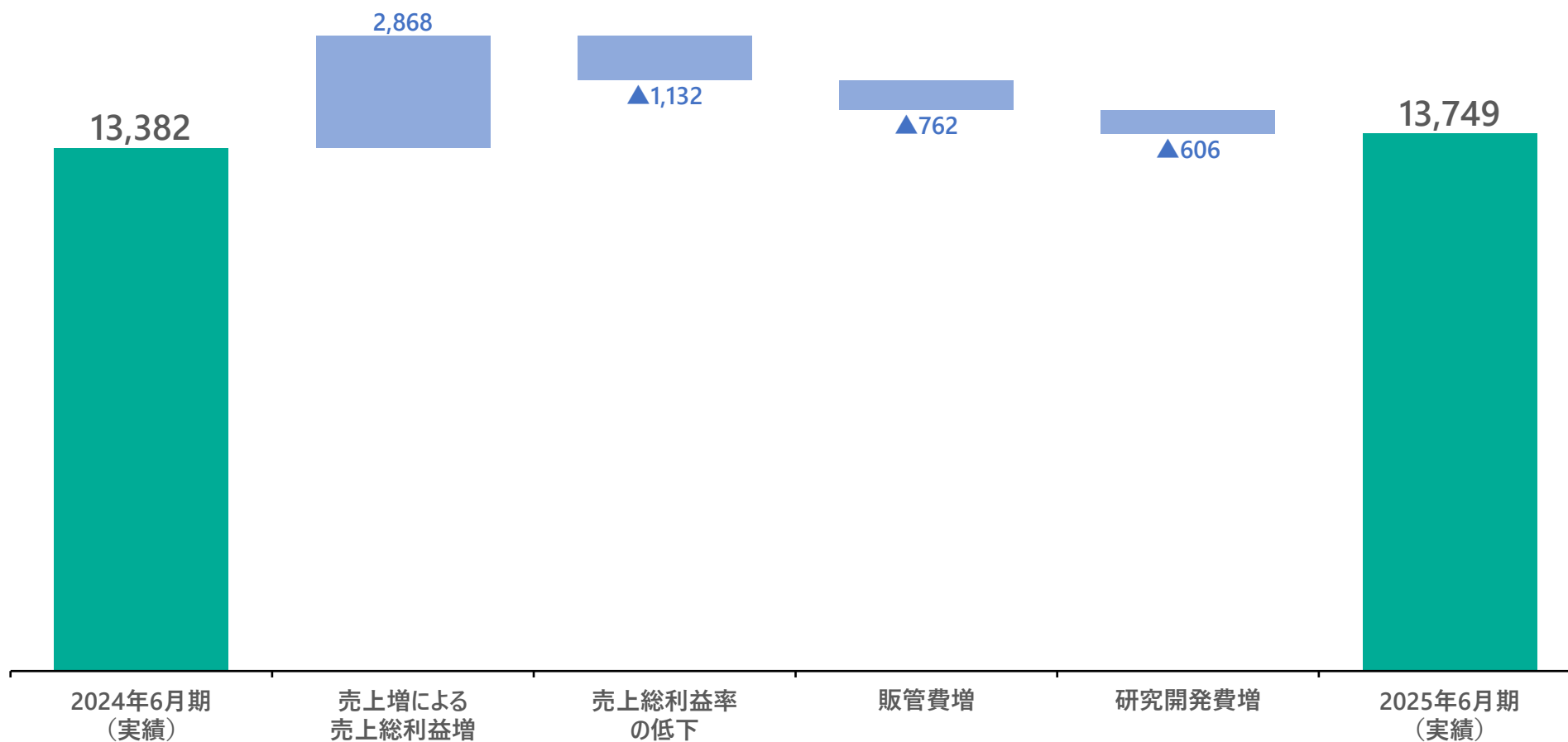
- ✓ 前期比で増収増益を達成。売上高、利益とも過去最高を更新
- ✓ パッケージングプラント事業が大きく伸長したことから、期初計画に対しても増収増益を達成
- ✓ 2025年6月期の配当金は、2024年6月期より5円増額し、年間95円を予定

	2024年6月期 (実績)		2025年6月期 (実績)		増減額 b-a	増減率 (b-a)/a
	金額 a	売上比 -	金額 b	売上比 -		
(百万円)						
売上高	115,434	100.0%	129,017	100.0%	13,582	11.8%
売上総利益	24,077	20.9%	25,206	19.5%	1,128	4.7%
販売費および一般管理費	10,695	9.3%	11,457	8.9%	762	7.1%
営業利益	13,382	11.6%	13,749	10.7%	366	2.7%
経常利益	13,559	11.7%	13,773	10.7%	213	1.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,781	8.5%	10,052	7.8%	270	2.8%
EPS (円)	353.5		363.3		9.8	
ROE	10.2%		9.6%		▲0.6%	

2025年6月期 (期初計画)		増減額 (計画対比) b-c	増減率 (計画対比) (b-c)/c
金額 c	売上比 -		
127,000	100%	2,017	1.6%
-	-	-	-
-	-	-	-
12,600	9.9%	1,149	9.1%
12,800	10.1%	973	7.6%
9,200	7.2%	852	9.3%
332.5		30.8	

営業利益増減（前期比）

- ✓ 変動費、固定費とも増加したものの、売上増による売上総利益の増加により、営業利益は増益
- ✓ 売上総利益率は、主に原材料価格の上昇および人件費の増加により低下
- ✓ 販管費は、主に人件費および売上増加に伴う荷造運搬費が増加



セグメント別売上高・営業利益

- ✓ パッケージングプラント事業は増収増益
- ✓ メカトロシステム事業、農業用設備事業は減益

	(百万円)	2024年6月期	2025年6月期	増減率
パッケージングプラント	売上高	66,007	80,081	21.3%
	営業利益	10,830	12,574	16.1%
	営業利益率	16.4%	15.7%	▲4.3%
メカトロシステム	売上高	36,993	37,765	2.1%
	営業利益	3,253	2,341	▲28.0%
	営業利益率	8.8%	6.2%	▲29.5%
農業用設備	売上高	12,432	11,170	▲10.1%
	営業利益	1,505	1,042	▲30.7%
	営業利益率	12.1%	9.3%	▲22.9%
調整額	営業利益	▲2,206	▲2,209	-
連結	売上高	115,434	129,017	11.8%
	営業利益	13,382	13,749	2.7%
	営業利益率	11.6%	10.7%	▲8.1%

パッケージングプラント事業

- ✓ 食品用プラントは国内および海外向け飲料無菌充填システムが増加
- ✓ 薬品・化粧品用プラントは注射薬バイアル充填システムや化粧品充填システムが増加

メカトロシステム事業

- ✓ 医療機器は北米や欧州など海外向けが好調で増加
- ✓ 半導体製造装置はEVやスマートフォン向けの設備投資が抑制傾向となったことから減少
- ✓ 医療機器において、新規採用部品の一部に耐久性の問題があり、交換費用が高んだため減益

農業用設備事業

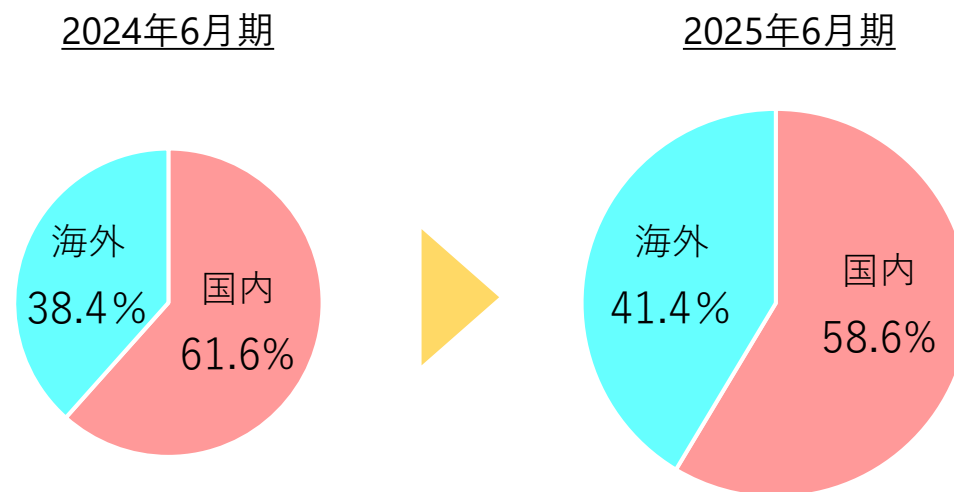
- ✓ 柑橘類向けおよび落葉果樹類向け選果選別プラントが増加
- ✓ 蔬菜類向け選果選別プラントが減少

地域別売上高

- ✓ 国内向け、海外向けともに増加
- ✓ 飲料無菌充填システムおよび医療機器を中心に、北米向けが大きく増加

(百万円)	2024年6月期	2025年6月期	増減率
国内	71,103	75,626	6.4%
海外	44,331	53,390	20.4%
－中国	14,032	12,817	▲8.7%
－アジア	15,067	17,895	18.8%
－北米	9,556	15,408	61.2%
－その他	5,674	7,270	28.1%
連結	115,434	129,017	11.8%

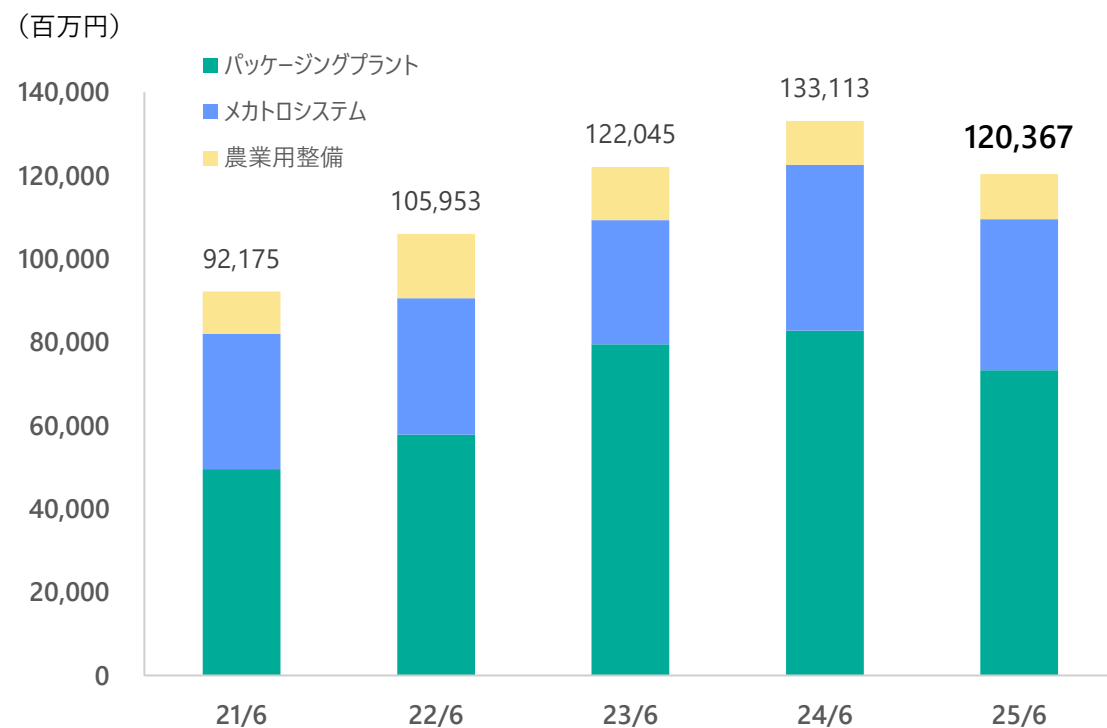
地域別売上高構成比



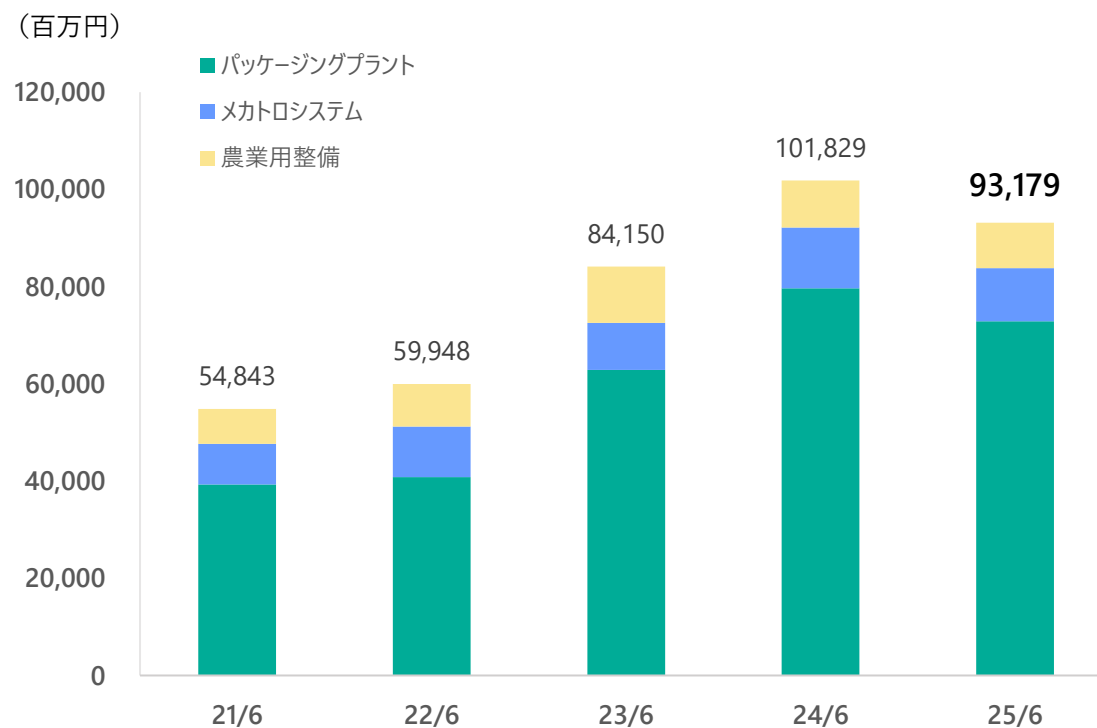
受注高・受注残高

- ✓ 受注高は前期比9.6%減少（パッケージングプラントが同11.4%減、メカトロシステムが同9.0%減、農業用設備が同3.1%増）
- ✓ 受注残高は前期比8.5%減少（パッケージングプラントが同8.5%減、メカトロシステムが同12.2%減、農業用設備が同3.5%減）

受注高



受注残高



連結貸借対照表

- ✓ 総資産は1,594億円（前期比24億円の減少）
- ✓ 現金及び預金、売上債権及び契約資産、契約負債などが減少

(百万円)	2024年6月末	2025年6月末	増減額
流動資産	112,668	105,574	▲7,093
現金及び預金	47,196	45,579	▲1,616
売上債権、契約資産	45,879	38,209	▲7,669
棚卸資産	15,749	17,392	1,643
その他	3,843	4,393	549
固定資産	49,234	53,852	4,617
有形固定資産	39,843	43,810	3,966
無形固定資産	551	538	▲12
投資その他の資産	8,840	9,502	662
資産合計	161,903	159,426	▲2,476

* 売上債権=受取手形+電子記録債権+売掛金

* 棚卸資産=製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品

(百万円)	2024年6月末	2025年6月末	増減額
流動負債	51,418	42,723	▲8,695
仕入債務	21,129	19,408	▲1,721
短期借入金	907	907	0
契約負債	18,181	11,314	▲6,867
その他	11,200	11,092	▲107
固定負債	9,455	8,773	▲681
長期借入金	3,696	2,789	▲907
その他	5,758	5,984	226
負債合計	60,873	51,496	▲9,377
自己資本	101,021	107,921	6,900
非支配株主持分	7	8	0
純資産合計	101,029	107,930	6,900
負債純資産合計	161,903	159,426	▲2,476

* 仕入債務=支払手形及び買掛金+電子記録債務

* 自己資本=純資産合計-非支配株主持分

連結キャッシュフロー計算書

- ✓ 営業CFは90億円、投資CFは▲66億円、財務CFは▲38億円
- ✓ 投資CFにおいて、有形固定資産の取得として67億円を支出

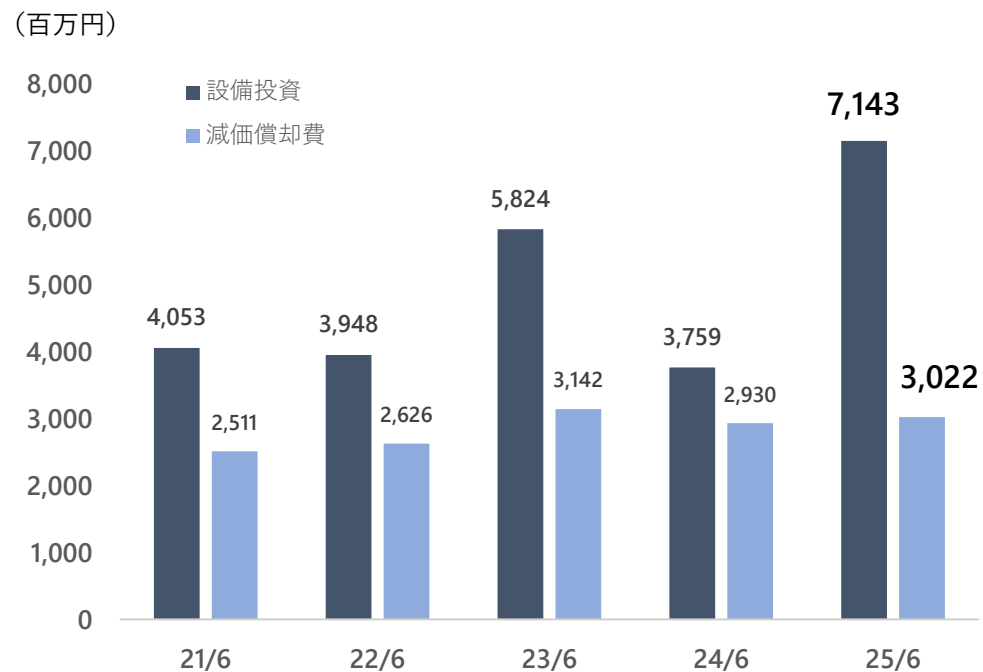
(百万円)	2024年6月期	2025年6月期	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	42,660	46,894	4,234
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,432	9,069	▲1,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,447	▲6,619	▲3,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,044	▲3,812	▲768
現金及び現金同等物の期末残高	46,894	45,291	▲1,603

(百万円)	2024年6月期	2025年6月期	増減額
フリーキャッシュ・フロー	6,984	2,449	▲4,534

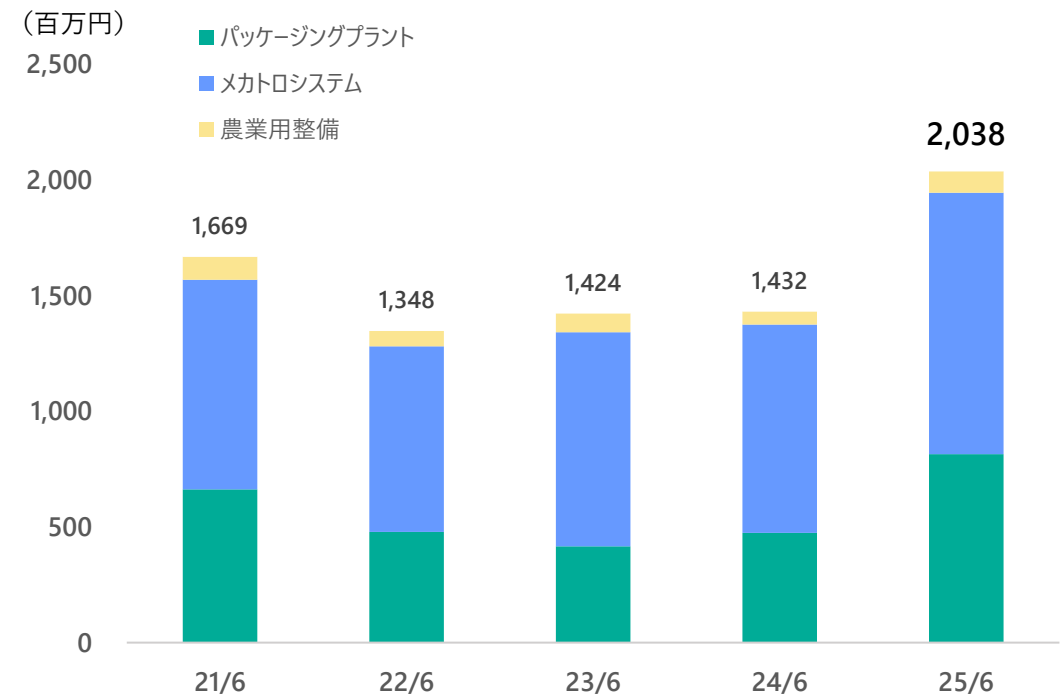
設備投資・減価償却費・研究開発費

- ✓ 設備投資は当社 新工場建設用地の取得およびシブヤ精機 新本社工場が完成
- ✓ 研究開発費は全てのセグメントで増加

設備投資・減価償却費



研究開発費



03

中期経営計画2027の進捗と展望

中期経営計画2027の位置づけ “シブヤ上げ潮戦略”

中期経営計画 2027

2024年 売上高実績

1,154億円



2027年 売上高目標

1,500億円

創業の原点「喜んで働く」を承継し、
ダントツ製品でお客様の繁栄をサポートします

2030年ビジョン

生活に不可欠な
業界の製造を支える
リーディングカンパニー

2030年 売上高目標

2,000億円

2030年ビジョン 達成に向けた 4つの方針

新製品開発 ダントツ技術



イノベーションを創出し、チャレンジ精神と独創的な
先端技術を具現化した「ダントツ製品」を開発

新市場開拓 マーケット拡大



健康意識と衛生意識の向上を背景に海外市場を
開拓し、世界の人々の健康維持に貢献

新事業創出



顧客ニーズへの対応の積み重ねにより新事業を創出、
必要に応じてM&Aを活用し、事業領域を拡大

環境への貢献



限りある資源の消費削減に寄与する製品・サービスの
開発・提供を通じて、持続可能な社会に貢献

外部環境の見通しと当社製品（飲料市場）

飲料市場の見通し

PETボトル飲料のグローバル市場は、
2033年まで年平均5%程度の成長が続くと見込まれる

- ✓ 北米では、健康志向の高まりから低酸性飲料の需要増加
- ✓ 中国や東南アジアでは、所得水準の高まりとともにPETボトル飲料の需要増加



飲料市場向けの当社製品 (パッケージングプラント事業)

- ✓ 多品種兼用充填包装システム
- ✓ 飲料無菌充填システム
- ✓ アセプティックモジュール
- ✓ 飲料製造無菌水供給設備



当社製品の優位性

- ✓ 安定稼働 <業界トップ水準>

ライントータル
OEE **70%以上**

無菌保持時間
(連続操業時間) **240時間**

※OEEとはOverall Equipment Effectiveness
(総合設備効率) の略

- ✓ 迅速丁寧なアフターサポート
- ✓ 細かなユーザーニーズへの対応力
- ✓ 世界初のEB殺菌技術による商業生産
- ✓ 豊富なバリエーションへの対応力（容器形状など）
- ✓ GMP準拠の製薬設備システムの実績に基づく無菌技術と検証技術における信頼性の高さ

外部環境の見通しと当社製品（医薬品市場）

医薬品市場の見通し

日本の医薬品市場は、難病治療の無菌注射剤の新薬開発の増加に加え、バイオ関連産業の育成や医薬品の安定供給を目的とした補助金が活発であり、積極的な設備投資の継続が見込まれる



医薬品市場向けの当社製品 （パッケージングプラント事業）

- ✓ 注射剤無菌製造システム
- ✓ ワクチン製造システム
- ✓ アイソレータ滅菌システム



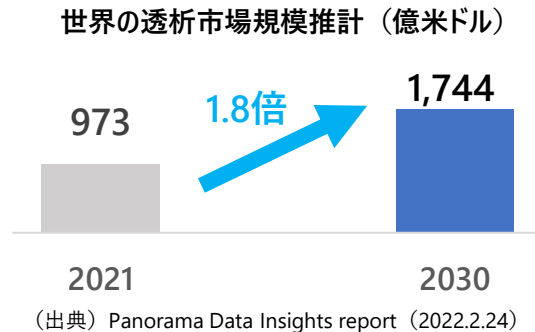
当社製品の優位性

- ✓ 充填部周辺のアイソレータや調製設備のトータルエンジニアリングによる高品質と収率向上
- ✓ 滅菌技術、検証技術、無菌環境下でのハンドリング技術における信頼性の高さ

外部環境の見通しと当社製品（透析市場）

透析市場の見通し

北米や中国、インドを中心に、
透析患者が増加傾向であり、
世界の透析市場は拡大が見込まれる

透析市場向けの当社製品
（メカトロシステム事業）

- ✓ 個人用透析装置
- ✓ 透析用監視装置
- ✓ 多人数用透析液供給装置



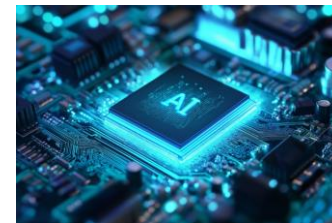
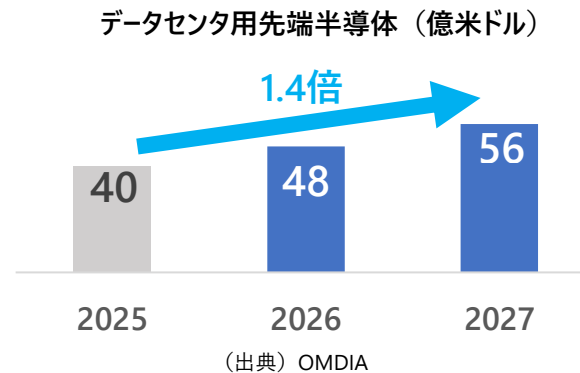
当社製品の優位性

- ✓ 透析市場に精通したニプロ社と強力なパートナーシップを構築
- ✓ 当社独自の、粘性体をコントロールするビスカスコントロールシステムを採用
- ✓ あらゆる地域向けにそれぞれ適した製品を豊富にラインナップ

外部環境の見通しと当社製品（半導体市場）

半導体市場の見通し

データセンタ用AIを中心とした
先端半導体の需要増加が見込まれる

半導体市場向けの当社製品
（メカトロシステム事業）

- ✓ 半導体実装装置
- ✓ テストハンドラ
- ✓ 超音波洗浄装置



当社製品の優位性

- ✓ 高精度位置決め技術
- ✓ レーザ応用技術
- ✓ 大型チップ／基板対応技術

▶ 先端半導体パッケージ用
ボンダに活用

外部環境の見通しと当社製品（農業市場）

農業市場の見通し

- ✓ 各国際協定により多くの農産物が関税撤廃の対象となっており、今後、国内産地の競争力の低下が懸念されるものの、国策として補助金の交付が見込まれる
- ✓ 農業従事者の高齢化や担い手不足を背景とした大規模化など、農業の構造改革が今後もより一層加速し、省人化、自動化ニーズが高まると見込まれる



農業市場向けの当社製品 （農業用設備事業）

- ✓ 選果選別システム
- ✓ 果実糖度分析システム



当社製品の優位性

- ✓ 選果選別システムの国内トップメーカー
- ✓ 最新AIを搭載した画像処理システム
- ✓ 選果データをDX化し生産者への営農指導に活用される「KAISEKIシステム」
- ✓ 生産効率を向上させる搬送・ロボット技術

自動化

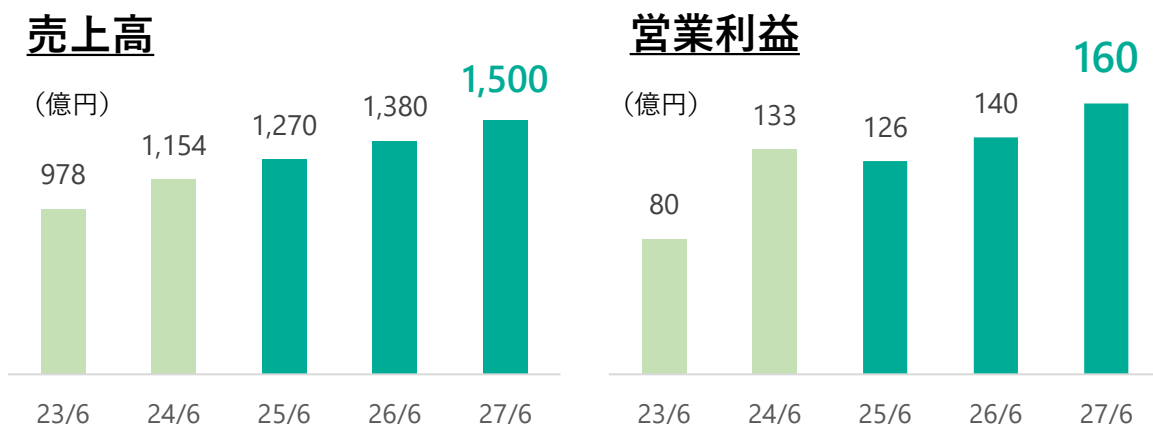
省人化

中期経営計画2027の概要（数値目標）

- ✓ 2027年6月期に売上高1,500億円、営業利益160億円を目標
- ✓ 戦略目標として、セグメント別売上高および海外売上高を設定

※以下、25/6期～27/6期の数値は全て、中期経営計画2027発表時（2024年8月26日）の計画値

中期数値目標

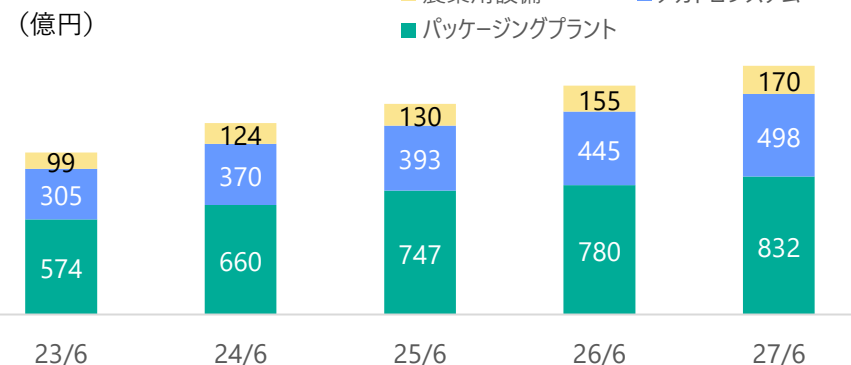


資本効率/株主還元

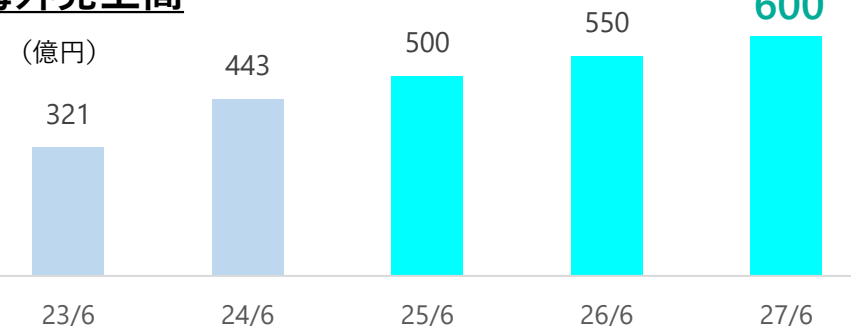


戦略目標

セグメント別売上高



海外売上高



中期経営計画 1年目の数値実績

✓ 中期数値目標、戦略目標とも中期経営計画2027発表時の目標を達成

中期数値目標

指標	2025年6月期 目標	2025年6月期 実績	2027年6月期 中計最終年度目標
売上高	1,270億円	1,290億円	1,500億円
営業利益	126億円	137億円	160億円
ROE	-	9.6%	10%以上
株主還元	-	26.1% (配当性向)	配当性向30%以上 機動的な自社株買い

戦略目標（売上高）

指標	2025年6月期 目標	2025年6月期 実績	2027年6月期 中計最終年度目標
パッケージング プラント	747億円	800億円	832億円
メカトロシステム	393億円	377億円	498億円
農業用設備	130億円	111億円	170億円
海外売上高	500億円	533億円	600億円

中期経営計画 1年目の進捗（新製品開発）

パッケージングプラント事業

✓ PETボトル飲料無菌充填システム

- ・ZHAプロジェクトによる新型2段殺菌システム1号機を出荷済み
- ・昨年開発した「トリプルブロック無菌充填システム」がアサヒ飲料様で本格稼働
- ・資材供給・回収作業の自動化も達成

今後の
展望

市場での評価を獲得し、
受注拡大を目指す

トリプルブロック無菌充填システム



✓ 小ロット多品種生産充填システム

「ライン式ウェイトフィラ・キャップ」を新開発。2025年5月に実施したインハウスショーには80社が来場し、日本酒・調味料・食品・化粧品などの業界から高評価を得た

今後の
展望

小ロット多品種の時代ニーズに
マッチした製品として、受注拡大
を目指す

ライン式ウェイトフィラ・キャップ



メカトロシステム事業（半導体製造装置）

✓ 先端パッケージ用ボンダ、光トランシーバー用ボンダ

積載化、小型化ニーズに対応すべく開発に注力。韓国の顧客へ納品予定

今後の
展望

- ・大型パネル対応ボンダの
早期市場投入が必要
- ・光トランシーバー用ボンダは
更なる高速化に対応

先端パッケージ用ボンダ



農業用設備事業

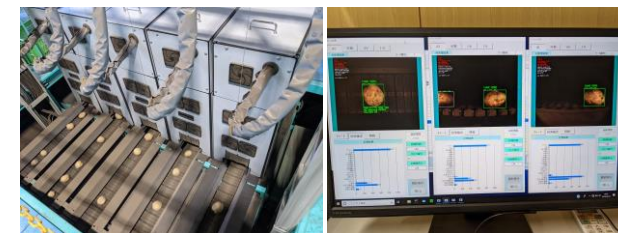
✓ 馬鈴薯向けAI選果システム

食用と比較して厳密な選別が求められる種子馬鈴薯の不良品の選別を独自のセンサーとAI技術により実現。手選作業員の削減や収穫・選果速度向上に寄与

今後の
展望

「スマート農業」を
先導し、持続可能な
農業生産に貢献

馬鈴薯向けAI選果システム



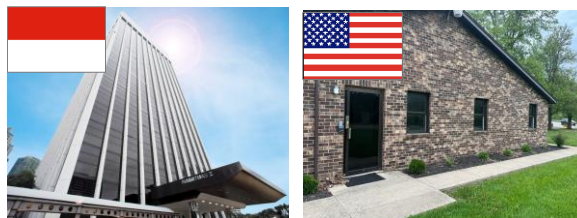
中期経営計画 1年目の進捗（新市場開拓）

パッケージングプラント事業

- ✓ インドネシア（ジャカルタ）にPTシブヤテクノロジーズインドネシアを設立
- ✓ 米国（オハイオ）にサービス拠点を設置

今後の
展望

サービス体制を強化し
更なる事業拡大を図る



- ✓ インド（ニューデリー）に営業事務所を設立

今後の
展望

年内に現地法人を設立し
ローカルスタッフと営業活動
を強化



メカトロシステム事業（医療機器）

- ✓ 米国FDA認可を取得し、北米向け出荷を本格化

今後の
展望

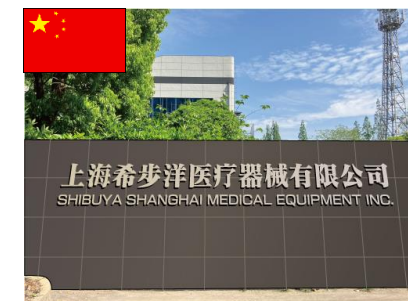
米国に駐在員を派遣し、
市場動向の情報収集や
顧客対応のスピードアップを図る



- ✓ 医療機器の現地生産を推進する中国政府の規制に対応し
上海に組立工場として現地法人を設立

今後の
展望

現地生産を進めるため
体制を構築中



中期経営計画 1年目の進捗（新事業創出）

パッケージングプラント事業

固液混合分散システム

- ✓ ボトリングシステムで培った技術を応用し製品化
- ✓ 固体と液体を混合する際に小さな塊（ダマ）が
できやすいという課題を、当社独自の技術により解決
- ✓ リチウムイオン電池用の電極材スラリーや、機能性接着
剤などの高粘度製品の需要が見込まれる

固液混合分散システムの需要が
様々な市場へ拡大

リチウムイオン
電池用の電極
材スラリー

高粘度製品

機能性接着剤、
カーボン系微粉末
原料、建材塗料
など

固液混合分散システム



リチウムイオン電池



車両・建材用 接着剤



自家細胞バンク向け自動細胞培養システム

- ✓ MEDEZE社（タイ）の細胞バンク培養施設に導入する
自動細胞培養システムを受注し製作中
- ✓ ロットによって培養プロセスが変動し自動化が難しいとされる
「自家細胞」を「無人運転」で量産を実現予定（世界初）
- ✓ 資材供給エリアと細胞培養エリアを物理的に隔離した構造
設計のため、安全で高品質なシステムを構築

当社の3つの技術を集約

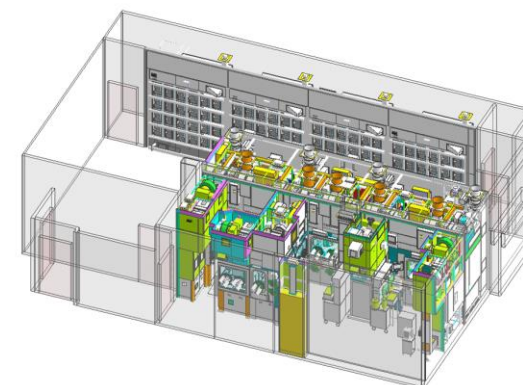
無菌制御
技術

細胞製造
技術

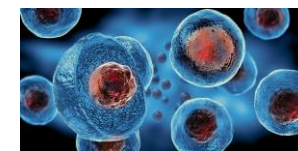
×

自動搬送
技術

自動細胞培養システム



幹細胞（イメージ）



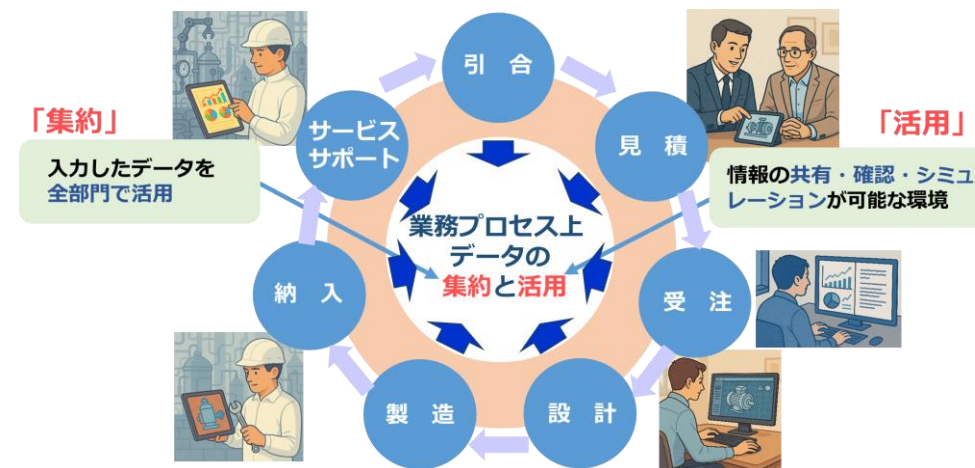
細胞バンク用タンク



中期経営計画 1年目の進捗（DX化・人的資本など）

一気通貫ものづくりDXプロジェクト

- ✓ 客先向けDXから社内DXを推進するプロジェクトを発足（2024年4月）
- ✓ 「見積→受注→設計→製造→納入→サービスサポート」を連携し、全体最適を目指すDXを推進
- ✓ 2025年7月に進捗を全社で発表（見積書作成システム、サービスサポート包括管理システムなど順次稼働予定）
- ✓ 設計部門では、シミュレーションソフトの活用拡大など効率化を図った取り組みが進行中



人的資本に関する取り組み

- ✓ 人材獲得を目的とし、経営企画統轄本部内に「ブランディング戦略プロジェクト」を設置
- ✓ 若年層の全社員から希望者を募集し、「採用分科会」を新設（新卒と経験者の採用増加や離職率の削減を目指す）
- ✓ インド理工系トップクラスNITTE大学と提携し、グローバル高度人材を継続的に採用

インドからの採用実績		
24/6期	25/6期	26/6期
10名	8名	20名 (内定)

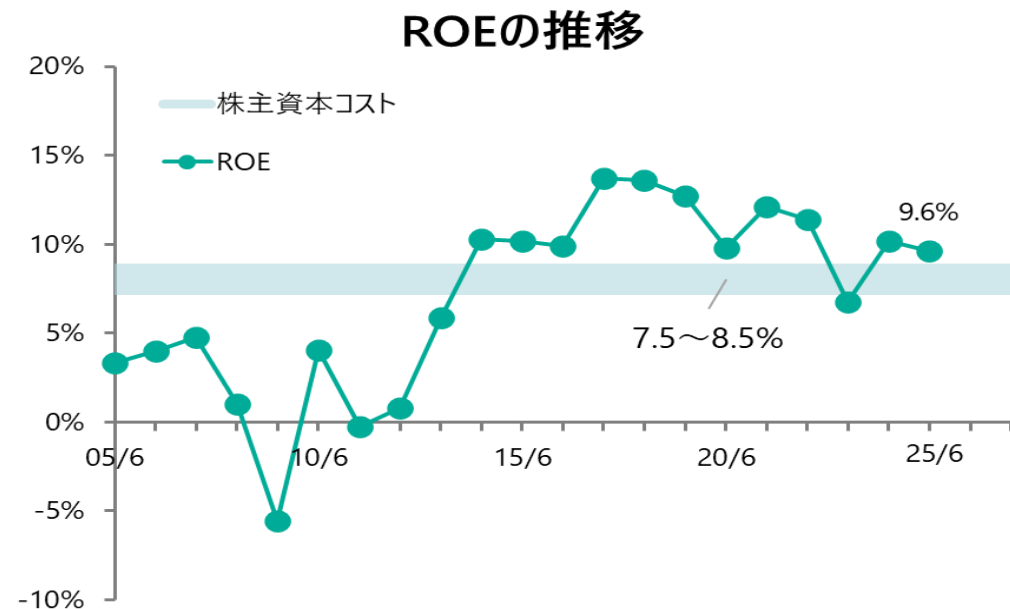
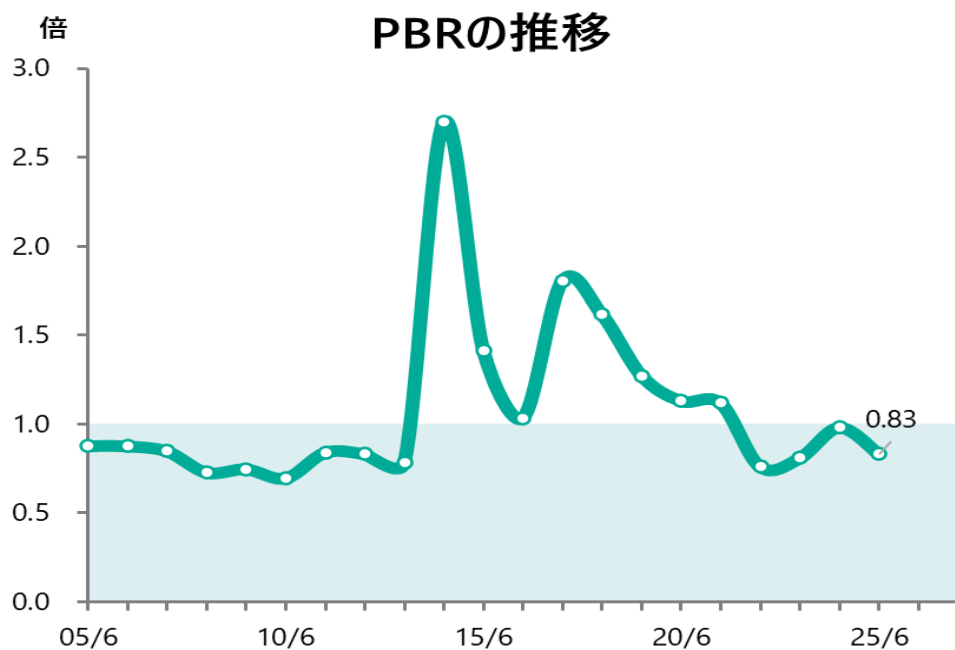
One Shibuyaグループ戦略

- ✓ 「SSGP戦略グループ調達会議（Shibuya Strategic Group Procurement）」を2025年2月からスタート

グループ会社間での調達・購買部門の緊密な連携強化を進め、生産部門の効率向上を目指す

中期経営計画 1年目の進捗（資本コストや株価を意識した経営）

- ✓ PBRは1倍を下回る状況。資本市場での評価向上を目指す



※ 2015年6月期において、厚生年金基金代行返上益7,354百万円を特別利益に計上していますが、上表のROEからは除外しています

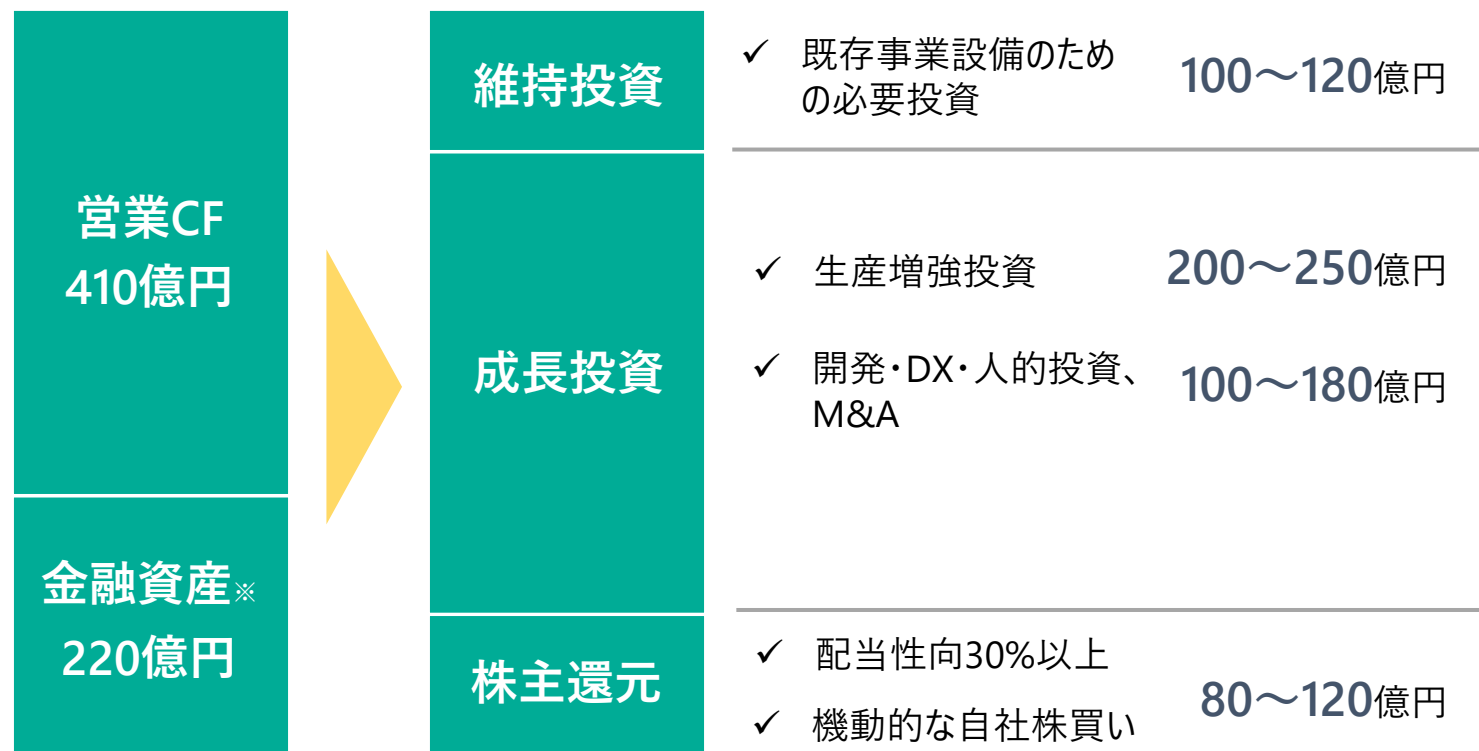
PBR向上策

- ✓ 中期経営計画の着実な遂行
- ✓ 継続的な技術革新 + 戦略的な成長投資による長期持続的な収益向上
- ✓ 当社の魅力が伝わる発信方法の模索 + 発信力の向上
- ✓ 長期持続的な成長の源泉となる収益力向上
- ✓ 戦略的な成長投資 + 安定的かつ継続的な株主還元の実施

中期経営計画 1年目の進捗と展望（キャッシュアロケーション方針）

- ✓ 計画通りに進行中。中期経営計画2年目以降の計画に大きな変更はなし

キャッシュアロケーション（25/6～27/6期）の概要



※ 運転資金250億円を控除後

中期経営計画1年目の主な投資

シブヤ精機 浜松新本社工場

2025年6月2日に竣工。今後、塗装設備など内装工事を行い、2025年8月から稼働

投資総額
(予定)

68億円

生産能力
(農業用設備事業)

20%up

※ 稼働に伴い、年間3億円程度の償却費増加を見込む

－浜松新本社工場－



中期経営計画 1年目の進捗と展望（生産増強投資）

- ✓ 新工場建設の計画は、4つの工場とも基本設計が完了し、2026年内に完成予定

工場名	対象事業	対象製品	投資予定額
SX森本工場	パッケージングプラント	ボトリング充填設備	91億円
森本第3機械工場			13億円
能美第2機械工場			38億円
医療機若宮工場B棟	メカトロシステム	医療機器	33億円
合 計			175億円

※ SX森本工場の名称は、中期経営計画2027発表時点（2024年8月26日）では、森本テクノパーク新工場（仮称）

新工場完成後の生産能力

パッケージングプラント
(ボトリング充填設備) **30%up**

メカトロシステム
(医療機器) **50%up**

※ 4つの工場が全て稼働後、減価償却費を中心に年間10~15億円程度の固定費増加を見込む

完成イメージ

ーSX森本工場ー



ー森本第3機械工場ー



ー能美第2機械工場ー



ー医療機若宮工場B棟ー



中期経営計画 1年目の進捗と展望（ESG戦略）

Environment（環境）

ZHAプロジェクトによる取り組み（第1弾）

- ✓ 2段殺菌方式の無菌充填システムの提供開始により、ボトル殺菌に要する薬剤使用量の大幅削減を実現
- ✓ 津幡工場（2024年9月）および能美ハイテクプラント（2025年6月）に太陽光発電設備を設置

ー2段殺菌方式の無菌充填システムー



ー津幡工場ー



年間発電量：約**546**MWh

年間CO2削減量：約**273**t

ー能美ハイテクプラントー



年間発電量：約**501**MWh

年間CO2削減量：約**257**t

Social（社会）

- ✓ 女性総合職採用の増加および女性社員の総合職への職務転換制度を創設
- ✓ インド理工系トップクラスNITTE大学と産学連携し、グローバル高度人材の採用を継続
- ✓ 社員のWell-beingを促進
 - ・年間休日の見直しおよびフレックスの導入
 - ・社宅、駐車場など福利厚生制度の充実
 - ・人事評価制度の見直し

Governance（ガバナンス）

- ✓ 女性取締役の就任（2024年9月）
- ✓ 取締役へのアンケート調査による取締役会の実効性の確認
- ✓ 取締役および監査役のスキルマトリクスの開示

04

2026年6月期予想および取り組み

2026年6月期予想

- ✓ 売上高は前期比で増加を見込むものの、損益面では若干の減益となる予想
- ✓ 主な減益要因は、人件費や償却費などの固定費の増加、素材・エネルギー価格の上昇、プラントのプロダクトミックスの影響

	2025年6月期 (実績)		2026年6月期 (予想)		増減額	増減率
	金額 a	売上比 -	金額 b	売上比 -		
(百万円)					b-a	(b-a)/a
売上高	129,017	100.0%	133,000	100.0%	3,982	3.1%
営業利益	13,749	10.7%	13,000	9.8%	▲749	▲5.4%
経常利益	13,773	10.7%	13,200	9.9%	▲573	▲4.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,052	7.8%	9,300	7.0%	▲752	▲7.5%
EPS (円)	363.3		336.1			

戦略目標の見通し

- ✓ パッケージングプラント事業は横ばいの見込み（計画延期案件などは来期以降へ）
- ✓ メカトロシステム事業の半導体製造装置および農業用設備事業が増加見込み
- ✓ 海外売上高は北米と中国が若干の減少を見込む

	2025年6月期 (実績)	2026年6月期 (予想)	増減額	増減率
(百万円)				
パッケージングプラント（売上高）	80,081	80,000	▲81	▲0.1%
メカトロシステム（売上高）	37,765	41,000	3,234	8.6%
農業用設備（売上高）	11,170	12,000	829	7.4%
海外売上高	53,390	52,000	▲1,390	▲2.6%

2026年6月期の取り組み

新製品開発



- ✓ AI・IoT・クラウド・データ解析などのIT領域と、ロボティクス・制御・リアルタイムシステムなどOT領域（Operational Technology）を融合させ、スマートファクトリーシステムの実ラインへの導入を目指す
- ✓ 半導体の先端パッケージ向け3D実装に向けたボンダの開発を推進
- ✓ フードテックに向けて、超音波洗浄やナノ・ミストを活用した食品の鮮度保持・殺菌の技術開発を推進

新市場開拓



- ✓ 飲料無菌充填システム、半導体製造システムにおいて、新たなパートナーシップによる新市場の大手ユーザーを開拓
- ✓ 飲料無菌充填システム、製薬設備システムをインド、バングラディッシュなどの南西アジアへ拡販
- ✓ 過熱水蒸気式焼成機を韓国などのアジアへ拡販
- ✓ 農業設備システムをインドネシアなどのアジアへ拡販

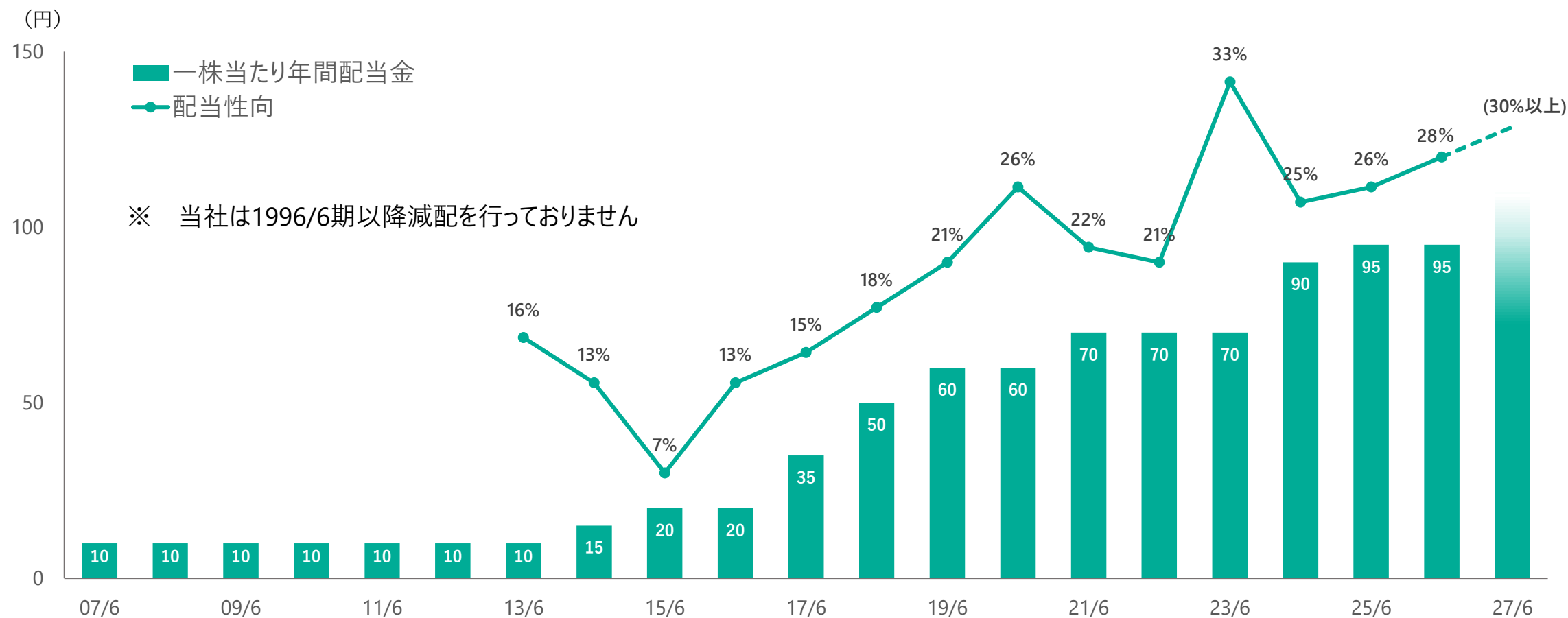
新事業創出



- ✓ 機能性接着剤などの高粘度製品の需要増加へのソリューションとして、固液混合分散システムを拡販
- ✓ 再生医療等製品材料適格性確認書を取得したゼラチンハイドロゲル粒子GelARTの拡販
- ✓ 肝臓再生療法の治験および早期承認手続きを推進
- ✓ 国内外のM&A候補の検討を継続

株主還元方針

- ✓ 2026年6月期は中間配当として1株あたり47.5円、期末配当として47.5円、年間95円を予定。配当性向は28.3%を見込む
- ✓ 2027年6月期に配当性向30%以上を目標とし、安定的かつ継続的な株主還元を実施します
- ✓ 自己株式の取得を機動的に実施します



World Leading Technology



澁谷工業株式会社

シブヤグループ

<本資料ならびにIRに関するお問い合わせ先>

澁谷工業株式会社 財務部

TEL : 076-262-1240 E-mail : ir-info@shibuya.co.jp

本資料は、投資判断の参考になる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。今後の実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。